

(いちご状血管腫)

乳児血管腫に対するシロップ剤による治療法について

小児科 部長 鋤持 順子

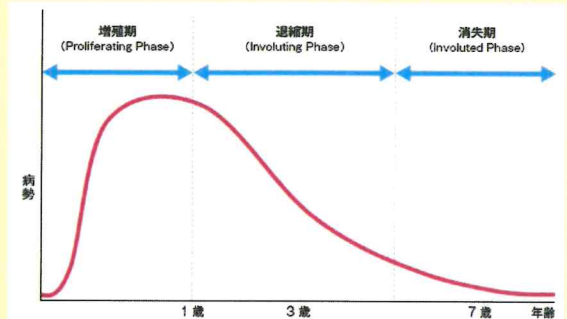


乳児血管腫(いちご状血管腫)とは

皮膚の表面や内部にできる良性的血管性腫瘍です。日本人の発症率は約1.7%とされています。¹⁾ 真っ赤なイチゴを皮膚に乗せたように見えるので、「いちご状血管腫」とも呼ばれています。

生後2週間ほどであらわれ、1歳頃にかけて増大します。その後、90%以上は、7歳頃にかけて退縮していきます。しかし、そのうち25~68%に癍痕が残る、と報告されています。²⁾³⁾⁴⁾

参考文献：1) Pediatr Dermatol. 1986 ; 3 : 140-144
2) Arch Dermatol. 1960 ; 82(5) : 667-680
3) JAMA Dermatol. 2016 ; 152(11) : 1239-1243
4) Plast Reconstr Surg. 2011 ; 127(4) : 1643-1648



グラフ引用：乳児血管腫(いちご状血管腫)の自然経過/患者さん・一般の皆さま/マルホ株式会社 (maruho.co.jp)

治療が推奨される場合

- 発生部位により、生命や機能を脅かす合併症をともなう乳児血管腫 (視覚障害・気道閉塞・哺乳不良・うっ血性心不全など)
- 顔面の広範な乳児血管腫
- 増殖が急激な乳児血管腫
- 潰瘍を形成している血管腫

治療方法の選択肢

これまで、乳児血管腫に対する治療としては、レーザー照射、ステロイド局所注射、ステロイド全身投与、手術療法などがおこなわれていました。これに加えて、2016年、プロプラノロール内服薬が保険適応になりました。プロプラノロール療法は、これまでの治療方法に比べて、患者さまへの侵襲や副作用が少なく、ガイドライン*では、第一選択となっています。

(*「血管腫・血管奇形・リンパ管奇形 診療ガイドライン2017」厚生労働省調査研究班2017年)

プロプラノロール療法とは

プロプラノロール療法発見の経緯▶ プロプラノロールは、1960年代から高血圧や心疾患の治療にひろく用いられている薬剤です。2008年フランスで心臓疾患の小児に使用したところ、この児の乳児血管腫が短期間で小さくなったことから、効果が偶然に発見されました。乳児血管腫に対するプロプラノロール療法は、2014年から欧米で使用が承認され、日本では、2016年に保険承認されました。

プロプラノロール療法の効果と治療概要

効果

「治癒」または「ほぼ治癒」した割合は、海外の臨床試験データ¹⁾では60.4%でした。国内のデータ²⁾では、78.1%でした。

参考文献：1) N.England J.Med.372 (8) ,735 (2015) 2) (株)マルホ、ヘマンジオール®シロップ第三相臨床試験

治療概要

- 治療開始時には、約1週間入院し、副作用の出現について厳重に管理します。
- その後は、効果と副作用の有無を観察するため、定期的に外来診療をおこないます。
- 約24週間後に効果判定をおこない、治療を終了するか、継続するかを検討します。

重大な副作用 (ヘマンジオール®シロップ添付文書より)

- 低血圧 (0.9%)
- 徐脈 (0.5%)
- 低血糖 (0.5%)
- 気管支痙攣 (0.2%) など

プロプラノロール療法が適用できない児

- 生後5週未満の児
- 気管支喘息・気管支痙攣のある児
- 重度の不整脈の児
- 低血糖の児
- 心不全の児、など



血管腫が疑われる お子様の保護者の方へ

- ①まず皮膚科または形成外科を受診し、正確な診断を受けてください。
- ②治療の選択肢について、説明をうけ、ご検討ください。
- ③本療法が適応になる場合、治療導入時は小児科での入院管理が必要です。

